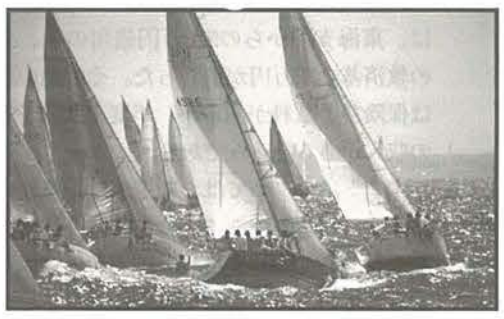
Offshore 1997/No.252



OFFSHORE 252号
平成9年9月15日発行
発　行　社団法人　日本外洋帆走協会
編集本部会報小委員会
〒108　東京都港区芝5-15-5　泉ビル4F
電話・東京03(3452)5812
FAX・東京03(3452)5815
編集制作協力　株式会社　舵　社
1部定価300円（郵送料別）

明日のNORCのために、さらなる会員のご協力とご理解を願う

会　長　戸田邦司

協会再建の途について（タブロイド版）第2号目のオフショア発行の運びとなりました。関係者の皆様のご努力・ご協力に深く感謝します。第1号の発刊は予定より大幅に遅れ申し訳ありませんでした。超緊縮財政のなかで、ほとんどすべての面で新しいシステムに切り替える途上でのことであり、これから当協会の諸事業を遅滞なく進めるに当たって十分考慮しなければならないという教訓となりました。

本部事務所機構を公益法人に許される極限まで縮小した現在、事業の推進はいかなるものであっても会員の強力な自主的協力なしには成り立たないということを強く感じました。会員の皆様に改めてご協力方お願い申し上げる次第であります。

このようななか、今回は朗報が1つありました。懸案でありました関東支部からの3,140万円の借入金の返済を免除していただいたことです。本部と関東支部が一体として運営されていた時のこととはいいながら、数年に渉って借り入れを重ねた結果であり、協会全体の責任でもあったわけですが、関東支部の皆様のご努力とご協力により、このような結果になりましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、本部、理事会、各委員会等協会の組織をあげて解決を迫られている問題が数多くあります。まったく新しい問題もありますが、過去数年に渉って検討してきたことを実行する段階になっているものもあり、さらに今後検討を重ねなければならない問題もあります。

協会事業のなかでレースの開催が重要な柱の1つであることには変わりがありませんが、どのようなレースを公式レースとし、それをどのような形で開催するか、レースの場合の共通ルールとは、日本ヨット協会との関係は、会員の拡大策は、と次々と新たな問題が提起されています。

以上のとおり、問題点は山積みされていますが、そのなかでも事務的問題や基本的問題は早急な解決を図り、明日のNORCのため前向きで発展的な問題に取り組む所存です。皆様方のご協力を切にお願い申し上げます。

執行部の動向

専務理事　尾島 裕太郎

●ジャパンカップの進捗

ジャパンカップ'97の開催は内海支部を通じ、関西ヨットクラブがorganizerとなり進んでおります。'97年12月の理事会で内海支部に正式に決定後、1）内海支部が開催地を選ぶ事　2）開催主体を決める事、について次のような意見を述べて参りました。

会員がフリート・支部単位でレースの運営に当るのが本来の姿であると思います。そのフリートに不足の役職担当者は、支部または本部より派遣する、他のフリート・支部よりお手伝いをいただくことが考えられます。

名誉は開催主体にあるべきです。だから、ジャパンカップ'97に関しても開催主体として立候補があり、そのフリートまたはヨットクラブがやり甲斐を出してレース運営活動を頑張るものと考えておりました。

しかしこの考え方は誤解を生み、理事や支部の方々に思わぬ波乱を起こしました。「NORCの権威はどうなる」、「ルールの解釈から見ると本部に主体があるのだ」、「いや、地方の時代だ。現場で活動するものに主体がある」などいろいろな声がたくさん届きました。東海支部からは、会長宛て文書による質問と回答要求も寄せられました。まずは、NORCのフリートと同格扱いできるヨットクラブ単位の入会制度など、事前に慎重な意見を伝える努力が必要だったのです。あるいは、会員の方々に真意を知っていただくため、じっくりと話し、ご理解いただく時間が必要だったのかも知れません。いまは深く反省しております。

●NORCの権威とは

ORCからNORCにくるlevy（徴収請求）に関しては受益者負担ですが、ORCへの委員の派遣などは、協会会員全体の会費と艇登録料で賄っています。私はこの部分が、外洋ヨットレースを支え続ける会員の誇りであり、権威の実態であると思います。故に、National Authority = 権威は会員に存在すると考えます。

●NORCの組織

NORCは、会員が代議員を選び、代議員会は会員のなかから理事を選ぶ、理事は執行部となり重要事項を代議員会に上程する、これがNORCの組織です。しかし、会員の意見は代議員を通して理事に伝わります。会員の意見が、理事会のフィルターを通じて代議員会に議題として上程できる仕組みではありません。現在、重要事項の大部分は理事会から代議員会に議題を上程し、代議員会で決定されます。しかし、理事と会員の接点はほとんど持てないのが実状です。

フリートやヨットクラブが会員の単位としてまとまり、フリート同士で全国一括でくくれる柔軟な組織を目指せれば、この組織1つ1つが理事会にテーマを投げかけ、理事会のフィルターを通し、フリート選出の代議員会に議題を上程できるでしょう。理事会はNORC全体をにらんで意思決定を行い、重要事項を議題にして行きます。

このような仕組みは、10数年前の情報流通システムでは考えられませんでした。しかし現在の日本では、文書による情報流通システム(fax・E-mail・郵便・宅急便)を使うと、既存の支部単位でくくる必要がないほど自由に意見の交換や会員データ・艇登録データーを扱う事ができるはずです。しかし、会員1人1人の総意をはかり、意思決定する集計技術を持つにはコストが高く、NORCの情報流通システムとして実行できるのは、フリートまたはヨットクラブを最小集団とするのが限界であると考えます。手段の1つとして、支部と連動した本部のHome pageも動き始めました。戸田会長が就任時話していた、組織の改革を一刻も早く完成させねばなりません。その他、政策委員会のなかに広報小委員会を設置する案も必要です。NORC執行部は、レース活動・公益的活動の結果をパブリックリレーションに乗せる努力をする必要があると考えます。NORCの活動を社会に知っていただく、NORCの社会的認知を得る、時間はかかるがNORC会員のステイタスを確保する、ということです。執行部に、支部・本部の意見交換を活発にする目的の3つの統括チームもできました。しかし、まだフル回転とはいきません。

以上の案に興味を持ち、faxや手紙、E-mailで意見交換のできる会員の方々にお願いがあります。ぜひHome pageやfax netの使用法について、事務局総務委員会宛てにご意見をお寄せください。お待ちしております。

第3回日本ヨット界統合準備委員会の報告

専務理事：尾島裕太郎

日時・場所：平成9年7月2日(水)・財団法人日本ヨット協会
出席者：米澤副会長、貝道理事長、穂積理事、岩田理事、有馬理事（以上JYA）、尾島専務理事、加藤常務理事、児玉委員、高田委員（以上NORC）。

会議に先立ち、NORC側から次の2件がJYA側に伝えられた。

1）6月11日、尾島、加藤両理事が「日本ヨット界統合準備委員会」の進捗状況を運輸省に報告した件。2）6月21日、ＮＯＲＣ関東支部代議員会において、NORC本部が関東支部から借用していた3,140万円全額の債務免除の議決を得た件。

議題：NORC側提案・会員制度および艇登録制度

NORC：新しい団体をつくるにあたり、JYA側とNORC側双方の会員制度と艇登録制度の基本案が重要である。特に、双方の組織に所属している会員の整合性について考えること。会報誌を送付していたが、現在は年4回新聞形式の会報を発刊している。レース事業は支部または支部とクラブ・フリートの共催としている。保険はレースを中心としたヨット賠償責任保険の強制、クルー障害保険の推奨をしている。

JYA：JYAの会員制度は、現在4年制会員、一般会員（大学生を含む）、高校生会員、ジュニア会員となっており、登録会員数は1万600名程度である。また、登録会員は自動的に障害保険の加入者となる。年10回発行する協会報はその印刷・編集・発送用の経費に会員1人あたり約1,300円規模のもので事業を行っている。

従って他事業に充当できる会費は非常に少ない。保険については、会員障害保険の他に、総合賠償責任保険・団体ヨット共済への加入を勧奨している。また、艇登録・計測等についてはそれぞれの艇艇種別協会で扱っているので、現在のところ協会でこの種の収入を期待することはできない。

NORC：会費は、会員管理と会員が要求している仕事を行うために必要な経費に充当すべきものであるから、その所要経費を積み上げて会費徴収額を決めることになるのではないか。

会員制度と艇登録制度の問題については、もし両組織が一緒になった時にはどの位の経費が必要になるかを詰めるために、今月末をメドに検討を進めたい。

JYA：会員問題は、原則的には双方で定めた基本線に基づいて、相互に調和を図るようにすることが大切だと思う。

NORC：会員問題については今後分科会で検討し、詰めていくことにしたい。JYA：この問題の検討にあたっては、会員保険・ブリテン等はオプション方式を取り入れることも考慮してもよいのではないか。また、統合後の基本的な会費は5,000円程度までとすることを念頭においた検討を進めてもらったらよいと思う。

ここで、進行役から会費・艇登録等の検討に関する分科会の構成要領についての発言があり、結論として両組織からそれぞれに統合準備委員会構成メンバー1名を含めた3名をもって構成し、検討を進めることで意見が一致した。

JYA：今後の検討課題は「あるべき姿」の追求が大切であること。目標（統合）に対して、何が課題で、これをいかに解決するかを検討することが大切である。

NORC：「タスクフォース21」での検討資料は、そのすべてを網羅しているように思う。従ってこの点を次回委員会でJYAから説明してもらい、検討したらいいのではないだろうか。

以上

● 分科会メンバー構成は、JYA側：岩田直幸理事、栗田栄一郎理事、今泉武伊知事務局長。NORC側：尾島裕太郎専務理事、鈴木保夫理事（財務委員長、山本高靖関東支部理事（会計）のとおりとし、分科会の検討でコストを詰め、その結果を受けて、次回の統合準備委員会において、組織、役員等の問題について検討することになった。

なお、分科会は7月31日、8月6日、8月19日に実施。第4回統合準備委員会は、8月20日18：30からNORC会議室で実施した。

ナイトセーリングの必需品！
夜間の安全航行を守る抜群の明瞭度、解析度そして増幅度。
ITT NIGHT VISION™

米国ITT社が開発・製造し、これまで軍需用に使用されていた「ナイトマリーナ」が日本でも発売。「ナイトマリーナ」は星明りで300m、満月では620m先まで景色が確認できます。F／1.4光学系の視野角度40°で、ほとんど肉眼に近い視野が得られます。又高い防水・浮水性を要し、軽量でコンパクトな設計で片手の操作にも簡単に出来ます。
●NORC会員のみなさまには特別価格を設定しております。

光増幅型暗視装置
ナイトビジョンビューアー
ナイトマリーナ
■正規代理店
有限会社 ジュコー商会
横浜市中区太田町6-73　ハマビルディング302
TEL.045(212)5058/FAX.045(212)5139

1997年度第3回 理事会議事録

1．日時：平成9年7月12日(土)17:15～21:15
2．出席者： 理事30名中 出席25名
3・議題：
(1) NORC外洋レース規則等の改正
(2) 1997年度予算の執行状況
(3) 関東支部借用金の債務免除
(4) 会費の改訂
(5) 会員制度、艇登録制度
(6) 関東支部の分割
(7) ＪＹＡとの統合問題
(8) 統括チームによる検討状況
(9) <たか>裁判状況
(10)支部及び専門委員会報告
(11)その他

4．議事

議題(1) NORC外洋レース規則等の改正

●提案説明／石井(正)理事

(ｱ) 現行の「ＮＯＲＣ外洋レース規則」は、昨年のISAFのＲＲＳ改正により本規則の改正が必要となったが、今回は内容を全面整理して、「(a)ＲＲＳとの規定の重複を避ける。(b)帆走指示書で規定する事項は除く」との方針により改正を行った。なお、最近の裁判状況に鑑み、01条の(責任の所在)について、クルーの責任をさらに明確にした。

(ｲ) 「(社)日本外洋帆走協会ナショナル・ジャッジ制度に関する規程」については、推薦者にフリートキャプテンを加えるなど所要の改正を行った。

(ｳ)「(社)日本外洋帆走協会最高裁判委員会に関する規程」については、ＲＲＳの改正に伴い、同委員会はグッドマナーやスポーツマンシップに対する違反についても処置が出来る等所要の改正を行った。

(ｴ)本理事会の開催前日、所用のため欠席する秋山理事から、電話にてＮＯＲＣが上告問題を処理する最終的な最高審判委員会をＮＯＲＣが持つことについて疑問の提示があったが、私は、歴史的経緯、実績から、ＮＯＲＣが最高審判委員会を持つことは当然であるという見解を回答した。同氏は、ＮＯＲＣとＪＹＡの統合後はこれが変わるという前提で了解した。

●質疑応答

(ｱ)周東理事は欠席の都築理事からの伝言として、規則04条の(広告表示)に関する手数料の表において、カテゴリーＡの大会スポンサーの２％は多すぎる。１％で良いのではないかと述べた。

(ｲ)「ＮＯＲＣ外洋レース規則」の会員外の者への適用について討議が行われ、本規則を適用するレースに参加する場合は、非会員でもこの規則に従うことは当然であるという結論になった。

(ｳ) レース参加資格については、規則案どおり乗組員はＮＯＲＣ会員を会員の1／2以上とすることで了承された(各レースの帆走指示書で個々に対応できる)。

●採決

以上で質疑応答は終了し「ＮＯＲＣ外洋レース規則」等３規程は可決成立した。

議題(2) 1997年度予算の執行状況について

●説明／鈴木理事

(ｱ) 会費収入は前年度額の90％で組んだが、予算の76％で厳しい状況にある。舟艇登録料は登録艇が少なく予算の半額にも達していない。事業収入では計測を値上げしたためほぼ予算をクリアーした。通信委員会収入は年度末には達成できる見込みである。借用金は、東海支部からの500万円借用の他、会費の救済基金50万円が加わった。その他の収入は保険料手数料があるが、年度末ほぼ予算額の収入がある見込みである。

(ｲ) 支出については、年度末は予算額内支出となる見込みである。会議費は今秋代議員会を計画しており会場費、印刷費の支出が予定されている。事業費では計測委員会ではレーティングオフィス費があり、予定額の支出となる。総務委員会も会計機のリース代などこれから支払となる。会報小委員会300万円はほぼ未支出だが、これはすべて郵送料で、印刷費は舵社の好意を受けている。その他支出の返済及び予算費は東海支部借用金返済や前回代議員会で否決された特別会費からの繰入金中止分等である。

● 質疑

(ｱ) 昨年末から半年間会報が発行されていない。会員から不満の声がある旨の発言があり、浅野理事から、会報編集発行方式を大幅に変更したので発刊が遅れたが、タブロイド形新聞型式で７月中旬会員に到着する旨説明があった。

(ｲ) 戸田会長から、本年度予算収支が厳しいことから、とくに関東支部の予算収支に留意して、来年度予算を早めに慎重に検討するよう指示があった。

(ｳ) 本年度の鳥羽パールレースの出艇数は60艇台の見込みで、大幅に減少している。支部の事業収入も厳しいとの発言があった。

議題(3) 関東支部借用金の債務免除

●説明／鈴木理事

本年６月21日関東支部代議員会において、本部が関東支部から借用している3,140万円の債務免除が可決され感謝している。ただし本部会議室の無料開放、コピー機の無料使用等の条件があるが、誠実に履行する。

● 質疑

高田関東支部副支部長から、本部借用金債務免除はたまたま会計的にこのようになったが、本質的には関東支部のみ負担する問題でなく各支部も責任がある旨の発言があった。

議題(4) 会費の改訂、(5) 会員制度、艇登録制度

● 説明／鈴木理事

本年２月23日代議員会において、臨時会費の一部を一般会計に組み入れる予算が緊急動議により否決されたが、改定案は単純に本部収入分会費(会費規 定額の60％)に臨時会費の1／2を加えたものである。本部収入分会費としているのは、本部・支部間の連結決算を無にすることによる(支部会費は別途)。

過去の理事会等においても討議されたとおり、ＮＯＲＣでは会員制度、艇登録制度の抜本的改訂を検討した。今回は改訂に至る経緯と基本構想の説明とし、具体案は次の理事会で提案したい。

● 質疑

(ｱ) 尾島専務理事からも重ねて、次回理事会では、会費の改訂をふまえた会員制度、艇登録制度の具体案を提示するとの発言があった。

(ｲ) 高田関東支部副支部長から、関東支部における事務合理化の状況から、セールナンバー登録を含めて艇登録と、会員管理を完全に分離する必要がある旨の発言があった

(ｳ) 現状では特別会員の負担が大きすぎる、会員の中には会友艇への移動の意向が相当ある旨の発言があった。

議題(6) 関東支部の分割

● 説明／高田関東支部副支部長

６月21日関東支部代議員会において、関東支部は平均支部会員約500人の４支部に分割することが決議された。具体的分割案に基づいて検討中で、この秋には本部理事会に承認を求めることとする。

●質疑

松永駿河湾支部長から、地形的に熱海、伊東が関東支部分割後湘南方面グループに加わることは理解するが、鳥羽パールレースフィニッシュ地点が熱海市初島となるなどあり、今後は東海・関東支部と更なる連携をとりたい旨の発言があった。

議題(7) ＪＹＡとの統合問題

● 説明／尾島専務理事

さる７月２日のＪＹＡとの打合会では総会後の整合性を検討するため会員制度、艇登録制度の概要を双方説明し、具体的問題を小員会により検討することとなっ た。

● 質疑

(ｱ) 戸田会長から、ＪＹＡとの打合会は両者の統合志向でここまで進んで来たが、現在の打合会は統合を前提とした詰を行っている段階である。統合する場合は両者とも最終的には機関決定が必要である。ＪＹＡとの統合につ いて、従前は各種観念的議論があった。今我々が必要なのは統合にあたってＮＯＲＣの伝統ある活動が損われないようにすることである。今後大切なことは、各フリートで良いコーチが若い後継者を育て、ヨット人口の拡大を図ることであるとの発言があった。

(ｲ) 大儀見理事から、和田氏がＪＹＡ会長になられた時点で、それまでの具体的検討過程を踏まえて、抜本的な統合のための提案が行なわれ、ＮＯＲＣの理事会としてはこれを統合のベースとして協議を進めることが確認され、協議が行なわれたが、まとまらなかった。現在もＪＹＡからＩＳＡＦの関連でナショナルオーソリティについてのＮＯＲＣの主張と合い入れない意見が表明されているが、これに対する反論はあるにせよ、現在は文部省、運輸省共管の単一の団体を造ろうという統合のタイミングであると思う。ＪＹＡも同じであろうとの発言があった。

(ｳ) 石井(竹)理事から、統合打合会に出席し、意見を述べることを希望する理事があれば、検討内容に応じメンバーの追加を検討することが必要の旨の発言があった。

(ｴ) 石井(正)理事から、ルール委員会はＪＹＡとすでに合同で検討すべき問題は実施している。ただし打合せにあたっては誤解を生じないよう留意している旨の発言があった

(ｵ) 周東理事からＪＹＡとの統合にあたって、我々の足場を固めることが必要である。支部、フリートの組織を強固にして、団体としてのメリットが会員に分るようにして、レース、組織の活性化を図ることが大切である旨の発言があった。

議題(8) 統括チームによる検討状況

● 説明／尾島専務理事

日本外洋帆走協会統括チームによる効率的にな運営と予算の執行については４月18日、1997年度第２回理事会の賛成により組織が成立し、打合会を行った。本部のＰＣ事務合理化は８月上旬検討をする。

ＰＣホームページも本部、及び一部の支部で開設したが、今後充実を図りたい。(資料９参照)

● 質疑

(ｱ) 周東理事から今秋関西ヨットクラブがＪ.Cの実施団体になると聞いているが、Ｊ.C.をＮＯＲＣ本部でも支部でもない、その他の団体が実施する場合の具体的な対応方針を持ってもらいたい旨の発言があった。

(ｲ) 大儀見理事から、ルール上の実施団体(ORGANIZING AUTHORITY)のレース運営上の権限についての混乱があり、実施団体もルールに拘束されることが理解されていないことが指摘された。上記問題とは別に、周東理事の発言についてはＮＯＲＣは規程を持つべきで、今回の理事会資料８に私案を加えさせてもらった。理事会で検討願いたい旨の発言があった。これに対し尾島専務理事は次回理事会で検討する旨回答した。

議題(9) <たか>裁判状況

●説明／尾島専務理事

<たか>裁判の総まとめは、今回発行の「Offshore」251号を読んでもらいたい。７月17日には原告側の海事評論家小島敦夫氏の証人尋問が約２時間予定されており、一方、９月25日には被告ＮＯＲＣ側の顧問である野本謙作氏の証人尋問が約２時間予定されている。裁判状況は逐次会報に掲載する。

議題(10) 支部及び専門委員会報告

(ｱ) 浅野理事から新企画会報誌タブロイド版「Offshore」は、新しい試みのため発行が遅れたが、７月13日の週には会員各位に見ていただけるようになった。

(ｲ) 林理事から本年11月にはＯＲＣ総会が例年どおり開催される。提案、意見があれば至急お知らせ願いたい旨の発言があった。

議題(11) その他

●説明／加藤常務理事

(ｱ) ＮＯＲＣ安全規則の改正について

1997年度第１回理事会において「ＮＯＲＣ安全規則」の改正が採決、すでに施行されていることを確認する。

(ｲ) 小型船舶検査受験時期の変更

船舶安全法の改正が行なわれ、小型船舶については、中間検査、定期検査を受験する時期が大幅に弾力された。

(ｳ) 平成９年「海の旬間」等に対する協力について、運輸事務次官から「海の旬間」への協力依頼、海上保安庁長官等から連名で海難防止強調運動に対する協力依頼が届いている。

(ｴ) 関係官庁への陳情

海保臨検問題、灯浮標設置問題、船舶検査問題、海技免状更新手続簡易化問題、さくらマーク問題などについては、内容を検討し、順次陳情、関係官庁の回答を得るよう作業中である。

(ｵ) 第37回東京国際ボートショー

1998年２月11日(祝日)～２月15日(日曜)の間、舟艇工業会主催にて、東京ビッグサイトで行われる。

(ｶ) 本部への各専門委員会の資料の提出

本部へ提出いただいた分はファイル別に保存するので協力願いたい。

他に質疑意見等はなく、以上で審議を終了し、1997年第３回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成９年７月12日

議　長　　戸田　邦司
署名人　　大儀見　薫
署名人　　高橋　太郎

訴訟対策特別委員会の報告

NORC専務理事 尾島 裕太郎

Ⅰ今回期日1997年07月17日10:15 (627号法廷)
(経過)証人尋問 弁論 証人小島敦夫尋問
陳述書61-64提出。甲準備書面(06月12日付け)陳述
裁判所より 社団法人日本外洋帆走協会は次回証人の陳述書を早期に提出する事となった。
Ⅱ次回09月25日(木)13:30(627号法廷)
予定 証人尋問 弁論
証人 野本健作

原告側代理人質問は、まず証人の履歴確認から始まり、雑誌ヨッテイング記載の復原力曲線の意味を問い、次にヨットレースの順位の決め方について質問（証人はハンディキヤップ制であると回答)。再度、NORCの事故報告書中記載の〈たか〉の復原力曲線の意味を問い質した。
小島証人：〈たか〉の復原力は108度である。資料にある木造帆船踏襲型ヨットに比較し、倒れやすいし、倒れるとおきにくい。
原告側代理人：〈たか〉の特性から、どの程度の技量の人が操船できるか。
小島証人：私は九州から釜山まで43ftのヨットの航海経験がある。それとオーストラリアから大阪までである。私の経験からしても〈たか〉の操船は難しいと思う。
原告側代理人：グアム·レースの開催時期の適切性に付いてはどうか。
小島証人：世界のほとんどの国で、レースは春から夏に行うもの。冬は天候が荒れ、気温の低さと空気の密度が高いためパワーのある風だ。ヨットレースは冬山と同じだ。冬山開きに一般の人たちを募集するとどうなる。日本の冬の海は危険だ。気温が低く海水温は高い。〈たか〉の事故当時、私は客船で26日に神戸を出港し、潮岬近辺の西岸を走っていた。かつてなく荒れた天候だった。
原告側代理人：〈たか〉の参加資格についてはどうか。
小島証人：JGYRはカテゴリー1だ。
原告側代理人：カテゴリー1なら復原力は115°でなくてはならないのに（〈たか〉は）105度であった。
小島証人：この件に関してフィニッシユ後レース委員会へ抗議を出した〈摩利支天〉のスキッパーを取材した。コミッテイより却下されたとの事だ。理由は、スタートが1991年度であるからと判断したと解釈したとの事である。
原告側代理人：ライフラフトの設置場所に付いては。
小島証人：（12m超と12m以下のヨットに搭載するライフラフトの差の意味から回答を始め）大型ライフラフトは3日分の食料を搭載している。私が雑誌を主宰しているとき、実験した事がある。1回目は、3日分の水に海水を混ぜるなどして、90日生き永らえた。ほかに釣り道具や生存指導書などがあり、これは重要な意味を持っている。搭載位置について、ヨットは重量配分について色々なファクターがある。原告側代理人：（資料を示し）搭載は定位置でないのか。（船尾搭載の写真を示し）ここに積むのが普通ではないのか。
小島証人：これでは重量配分が悪くレースにならない。50kgのライフラフトを船尾に積むとシーソーと同じで、安全性で問題が出る。普通船舶用ライフラフトを乗せるのは、船体中央が標準である。〈たか〉にそのままで搭載は無理で改造が必要と思われる。
原告側代理人より、レースの中止に付いての質問。その場合取られる安全性の確保手段に付いて質問があった。
小島証人：レースへの参加・不参加はそれぞれ操船に差があるため、各船長の責任で決める。レース中は、外部より得る情報の種類に制限がある。一般公開データは可である。特定地域データは不可だ。レース中止となると、自分のヨットがどこに向けると一番安全かを決める。当時、近辺の漁業気象など入手すればもっと安全なところに向かえたかもしれない。また安全操船に集中するからレース中とは操船方法が違うと思う。
原告側代理人：12月27日16:20横須賀海上保安庁より中止要請があったのは知っているか。
小島証人：知っている。生存者の話などを読み、〈たか〉の行動を想定すると、セールなしのベアポールの状態で南に向かっていた。小さいジブセールを展開したら、波が打ち込む。レース中止なら他に向かう。いかに凌ぐかですごしたと思う。乗員の体勢として、レース継続には錬度の高い乗員が必要だ。普通は乗員の体力温存のため見張りは少ない。中止なら、局面に合わせワッチを多くする体勢を組む。エンジンの有効性も考えた。〈たか〉が波を受け急停止するのを避けられたかもしれない。波をかわせれば転覆を避けられたかもしれない。レースをリタイアしない理由として輸入艇は帆走させたほうが有利だ。完走させる事で売れ行きに関係があるようだ。

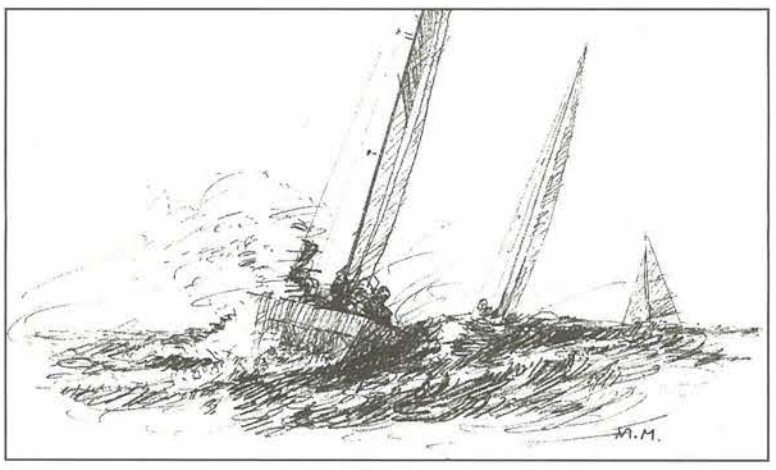
以下、次の通り小島証人に対して、国、裁判官、NORC代理人から質問があった。
■国の代理人の質問。
1：ヘリによる捜索について知っていたか
■サンスイ代理人質問
1：証人の乗船歴について
2：〈たか〉を直接見た事があるか？
3：武市氏に付いて
4：実験の外的条件について
■裁判官質問
1：レース中止による主催者の態様について
2：レースと帆走の違い
3：レース中止された場合の主催者に要請される行動について
4：アルゴスについて
5：レースにおける一般的な救難体制について
■NORC山本代理人質問
1：広島釜山間の帆走について
2：グアムレース出場の経験の有無
3：IORとIMSの違い
4：レーススタート後の中止の判断は誰がするのか

事務局短信

■数年前、NORC事務所が虎ノ門にあった頃は、本部は関東支部と同居して7～8名の体制でした。しかし、事務所が港区芝に移転し、新体制になった4月からの事務所常勤は、加藤常務理事と寺澤事務局長代行の2名のみとなりました。いまのところ、週日指定のアルバイト勤務で川上さんと石川さんに来ていただいているので、なんとか4名体制でがんばっています。NORC本部で行うべき会員・艇登録、計測等の事務のほか、せっかくの法人組織ですから関係官庁への陳情、情報収集等、会員の方々のメリットになるよう目標を掲げています。
■安全航行問題では本年1月、日本海で<ナホトカ>号沈没事件に伴う大量流出油事件があり、NORC関連では4月にSAIL OSAKA'97に参加していた南波さんが遭難するという悲報が届きました。また、7月には東京湾で<ダイヤモンドグレース>号による流出油事件もありました。社会的に大きな事件が相次いだことにより、安全航行再確認が海上保安庁を中心に検討され、基本的な見張り厳守、船位確認等について改めて注意を求める文書がNORCにも来ました。各支部長にはお知らせしており、今後いろいろなかたちで安全航行対策の呼びかけが行なわれるようです。我々NORC会員は外洋ヨットセーラーの中核的な存在です。安全航行への強い誇りと細心の注意意識を持って行動しましょう。
■2年前、製造物責任法（PL法）が施行されました。製造物である小型船舶についても本法が適用されることから本年7月、日本舟艇工業会に「プレジャーボート製品相談室」が設置されました。小型船舶に係る迅速、簡便な裁判外紛争処理体制が出来たことをお知らせします。設置されて10日程経過したところで、事務局に問い合わせたところ、「すでに2～3件の照会が来ているが、内容的には相談室マターではなく、メーカーへの苦情程度のもの」とのことでした。なお、加藤常務はNORC勤務であることから本室の運営評議員を依嘱されています。また、さらに具体的な紛争事件の際には、学識経験者として弁護士等の方々から成り立つ斡旋委員会に委員として出席することになっています。
■本年7月1日船舶安全法が改正され、船舶の検査制度の大幅な見直しがありました。会員にとって関心の高いところでは、総トン数20トン未満の小型船舶の受験時期の緩和が図られました。ポイントは、中間検査は指定日の前後3ケ月（すなわち6ヶ月期間内）に受験すればよいことです（指定日以降3ヶ月間に立入検査があったときは、受験予定を申出ていれば違反になりません)。また、定期検査は3ヶ月前から受験でき、これによって次の定期検査指定日がくり上がることもありません。このような制度になったことから、マリーナ単位、フリート単位で共同して申請する等のメリットも大きくなりました。
■NORC外洋レース規則等の改正が理事会で可決されました（第3回理事会議事録参照)。会員の皆様には、改訂された「NORC外洋レース規則1997年版」を、近日中に各支部より発送いたします。
■本年度第1回理事会において、「NORC安全規則」の一部改正がありました。従来の「安全検査」が「特別規定検査」に用語変更しました。公示が遅れたことをお詫びいたします。
■本年度の年会費は2月末が納入期限となっています。会費は会運営の源泉として不可欠です。未納入の会員の方は至急、各支部へお納めください。

JAPAN CUP'97関西にて初の開催
関西ヨットクラブ（KYC）が本年開催に名乗り

ジャパンカップは2年に1回のビックレガッタとして定着していましたが、本来は休みの本年（1997年）にも開催される運びとなりました。これは関西地区のセーラーたちの「ジャパンカップを関西で」の気運の盛り上がりを受けて本部理事会で承認されたもので、今回は社団法人関西ヨットクラブ（KYC）を中核とするジャパンカップ'97実行委員会が運営主管します。
レガッタはIMSディビジョンのみで、カテゴリーBの大会です。レガッタの内容はインショア7本、ロングオフショア1本の計8レース。いずれも西宮ベースに構成されています。
レガッタの期間は10月17日（金）～19日（日)、24日（金）～26日（日）の6日間です。
ジャパンカップ史上初の関西における開催で、期待が高まります。ふるって参加ください。詳しい問い合わせは下記まで。
(問）社団法人関西ヨットクラブ 担当／竹井一雄
〒662 西宮市西宮浜4-7
TEL：0798-26-0691 FAX：0798-33-2768



専門委員会だより

小型船舶検査の技術基準改正（通信関連抜粋）について

通信委員会

このほど船舶検査の技術基準が一部改正されました。外洋ヨットに関する国際VHF等、通信に関連する部分についてのみお知らせしますので、詳細については最寄りの日本小型船舶検査機構各支部へお問い合わせください。

1．小型船舶用信号紅炎の同等物追加

従来から漁業無線、船舶電話、マリンVHF等での代替が認められていましたが、今回新たに国際VHFおよびサテライトマリンホン(衛星利用の船舶電話)が追加されました。これにより、船検時ごとに購入および破棄の処理が必要だった火薬類が一部不要となりました。

2．沿海区域での救命いかだおよび救命浮器の設置免除

同区域を航行区域とする小型船舶が、漁業無線、船舶電話またはマリンVHFを設置した場合、救命いかだまたは救命浮器の設置が免除されていましたが今回、国際VHFまたはサテライトマリンホンの設置によっても免除されることになりました。

3．近海区域を含む回航の設備要件緩和

従来1時間を超える近海区域を航行(回航)する場合は、EPIRBおよびレーダートランスポンダーの備えつけが必要とされていましたが、常に陸上との連絡が可能な通信設備を設ける場合、両設備は不要となりました。これにより、大幅な設備コスト等の負担なしに、遠距離レースおよびクルージングへの参加が可能となります。なお、「常に陸上との連絡が可能な通信設備」とは、アマチュア無線(短波帯)、NORCの中短波・短波帯SSB無線、船舶電話、サテライトマリンホン、国際VHF、マリンVHFを指します。

NORC保険デスク

安全セーラー優秀者表彰のお知らせ

団体ヨット保険8年間無事故者

NORC団体ヨット保険は、89年度から会員への損害保険サービスと国内ヨット保険システムの改訂を目的として、会員の皆様にご利用いただいています。

89年当時の募集内容は一般ヨット保険と大差のないものでしたが、団体保険が出来たことと、レース補償の有無によって保険料率を区分した特色が、会員の賛同をいただいたようで、初年度から多数の申込があり、年毎に増加傾向にあります。

団体ヨット保険は申込から事故内容までのデータを蓄積・分析することで、よりよいヨット保険のシステムづくりに役立てていて、その結果は毎年改訂して案内している団体保険の引受内容に反映しています。

ところが、保険は事故が起きて初めてその真価が判るものと言われています。NORC団体ヨット保険では、過去に契約者8人に1人の割合で事故が発生していて、保険金をお支払いしてきました。

一方、89年の初年度から97年度まで、9年間継続して団体ヨット保険をご利用いただき、事故と無縁の会員がいらっしゃいます。

そのなかで、91年から船体事故だけ無事故の方には、97年度新船体保険割引制度では、－2等級（保険料10%割引・免責金額5万円に減額）として、最も有利な条件でご契約していただきました。

さらに上をいく、89年度から無事故を続けている会員の皆様には、このたび「安全セーラー優秀表彰」を行うことにしました。8年間、船体事故・賠償責任事故・傷害事故の無事故者です。

それ以前からも事故はないのかもしれませんが、団体保険のデータの範囲でも、優秀な保険成績であり、安全な航行と艇のメインテナンスの賜と感謝したいと思います。優秀者の皆様には、後日ご招待状で案内致します。ご来席くださいますようお願いいたします。

安全セーラー優秀者の皆様
関東支部（7名）
名和幸夫様・＜飛車角＞　小網代
石橋　進様・＜ｵｰﾙﾄﾞﾏﾝⅤ＞　葉山港
岩波勝身様・＜AMATELAS＞横浜市民ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ
佐藤令介様・＜ｱﾆｱｰﾅ＞　諸磯
新藤伸人様・＜NICEFELLOWⅢ＞逗子ﾏﾘｰﾅ
保苅　隆様・＜SEED＞　油壺京急ﾏﾘｰﾅ
東海支部（1名）
横井吉和様・＜PRIMAVERA＞名鉄西浦ﾏﾘｰﾅ
内海支部（2名）
氏家睦夫様・＜天霧＞　仁尾ﾏﾘｰﾅ
佐久間幹雄様・＜こいさん＞　淡輪ﾖｯﾄﾊｰﾊﾞｰ

表彰式の予定
日時：平成9年11月21日（金）18時～20時
場所：未定（東京駅周辺）
内容：表彰式及び懇親会（立食）
参加者：　安全セーラー優秀者の皆様／NORC保険担当理事／保険小委員会メンバー／東京海上NORC担当

支部だより

内海支部

いい風に恵まれた「紀伊水道レース」

来年は40回に相応しいレースにしたい

内海支部が主催する唯一の外洋レース「紀伊水道レース」が8月2日、淡路島サントピアマリーナ沖をスタートした。今回で39回目を迎えたレースだが、夜行列車に乗る機会がなくなったのと機を同じくして、オーバーナイトレースが下火になったのは淋しい。今回もスタート切ったのはIMS2艇、CR3艇の計5艇だった。

このレースは、スタート前に参加者全員が集まって朝食会を兼ねた出発式を行うのが慣例になっている。ここで各艇自分たちの選んだテーマミュージックに乗って自己紹介とレースにかける決意を披瀝する。今回は、昨年のパールレースを制した＜ハツ＞(Hol67)、巨大なジェネカーの威力をどう発揮するか新鋭の＜ペンギンクラブ＞（J-103)、先の香港大阪レースに参加した＜デッセオオサカ＞(Def36)、昨年の内海の年間優勝艇＜パワー＞(Def34)、唯一外国人クルーを乗せた＜サラマンドラ＞(TUB1030) という顔ぶれとなった。

コースは、サントピア沖から紀伊水道へ出て徳島沖を南下、牟岐大島を回航して阿波踊りの待つ徳島港へフィニッシュする96マイルの航程。

午前11時、南からの風8m／s。良い風を受けたスタートで、各艇たちまちのうちに友が島水道へ姿を消していった。この調子だとトップは夜中フィニッシュ、という予感が的中することになる。

案の定、8月3日午前1時41分に＜ハツ＞がファーストホーム。その後、昼前までに全艇が帰ってレースは無事終了。優勝はIMS部門が＜ハツ＞、CR部門＜パワー＞となった。

内海支部伝統の紀伊水道レースは来年40回を迎える。これを飾るにふさわしいレースにするには、40艇の参加を募る以外にない。コース、時期、その他運営についても 全く新しい発想で考え直したい。内海はもちろん、外洋へ出る機会の少ない西内海のレーサーも参加したくなるようなレース企画したいと考えている。

近畿北陸支部

琵琶湖最大のシリーズレース、ヘインズカップ開催のお知らせ

大会名：ダイワボウアパレルヘインズカップ
　　選手権シリーズ1997
主催：NORC近畿北陸支部
開催場所：ヤマハマリーナ琵琶湖
日時：9月13日（土）16日（祝）
　　／6レースのシリーズ戦
クラス：クラスA
　　CR790m以上／クラスB　CR789m以下
※詳細は事務局FAX：06-779-9481へ。
　またホームページでも紹介中
　(http://www.osaka.xaxon-net.or.jp/~evans/norc)。

毎年恒例、朝鮮学校との交流クルージング

滋賀朝鮮学校1日ヨット教室

今回で3回目を迎えたこのイベントは、滋賀朝鮮学校の生徒（中学1年～3年)、先生、保護者、それに琵琶湖のクルーザー乗りと陸上スタッフの有志あわせて約90名が参加。琵琶湖大橋のたもとにあるレークウエストヨットクラブをベースに7月21日、大津市堅田～近江八幡市長命寺で実施されました。

開会式を終え、午前10時、6艇に分乗し長命寺へ向けて出航。快晴、北、軽風。 天候にも恵まれ、ゆったりとしたクルージングのなかで、先生や保護者の皆さんが準備してくださった焼肉パーティーや、生徒さんたちが披露してくれた朝鮮の民謡などで、参加したすべての人が夏の一日を楽しむことができました。

生徒さんたちは、その日の感想にこんなことを書き残してくれました。

「最初は慣れるのに時間がかかったけど、ヨットはとても楽しい乗り物だと思いました」、「一日いっしょに乗っていて思ったのは、ヨットに乗っている人は、みんな明るくて 優しい方ばかりだということです」、「去年とはまた違った気持ちでした。楽しいだけでなく、お互いに手伝い力を合わせて ヨットを走らせるように、他のことでも助け合う心を知らせてくれる機会でした」。

近畿北陸水域の三井支部長はじめご協力いただいた各艇のオーナー、クルーの皆さん、レークウエストヨットクラブの皆さん、そしてこのイベントの仕掛け人である元さん、どうもありがとうございました。また来年も、さらに多数の艇の参加で盛り上げられたらと思っています。　　川本　真

◇協力艇：
スピリットオブYYC、ノアブラザーズ、ノーサイド、ベラノ、ラム、流斗

東海支部

第38回鳥羽パールレース中止の報告

この度の「第38回鳥羽パールレース」は、7月22日より大型台風9号がゆっくり北上し、7月25日10：00のスタート時には影響ないものの、翌日26日にはレース海域が暴風雨圏となることが予想されました。

参加艇のキャンセルが相次ぐなかで最終エントリーが15艇となり、7月24日15：30からの艇長会議において各参加艇から意見を聞き、レースコミッティーはレースの中止を決定しました。

その後の前夜祭は急遽、東海支部主催の鳥羽パールレース親睦会とし、120人程の出席者は来年の再会を誓って散会しました。鳥羽パールレースは、38回目にして初めて中止となりました。自然の脅威に対し、ただただ頭を下げるのみとなったことを報告します。　　レース実行委員長：坂谷定生

西内海支部

西日本チャンピオン決定戦！「1997 SKK CUP ヨットレース」のお知らせ

主催　：NORC 西内海支部
開催地：広島観音マリーナ沖 宮島周辺海域
日程　：1997年11月23、24日／全3レース
クラス：IMS、CR
参加資格：
・本年度有効な計測証書を有すること
・海上での有効な通信手段を有すること
・3名以上が乗艇すること
・NORC特別規定検査カテゴリー4以上の証書を有すること
・NORC会員が艇長を含む全乗員の過半数であること
・NORC登録艇もしくは、会友登録艇であること
泊地：広島観音マリーナ及び
　　広島プリンスホテルマリーナ
問い合せ：
・レースに関する事／
　西内海支部事務局：082-234-3442(FAX/留守電)
・計測証書に関する事／
　田村治久（計測委員）：082-278-0904
・安全検査に関する事／
　五十川 純一（安全委員）：0849-53-1368
・係留に関する事／
　広島観音マリーナ：082-234-7710
　広島プリンスホテルマリーナ：082-256-1111
　海楽園ヨットハーバー：0829-56-0316
　沖野島マリーナ：0823-57-2450

地レース振興会！勝敗なんか関係ない！「1997 SKKヨットフェスティバル」

昨年は、「舵誌」の地レース振興会に紹介されました。 とっても楽しいヨットフェスティバルです。日頃レースとは関係のない方々みんなで遊びに来て下さい。

主催：NORC西内海支部
開催地：広島観音マリーナ沖 宮島周辺海域
日程：1997年11月23、24日／全2レース
参加資格：
・海上での有効な通信手段を有する事
・2名以上が乗艇する事
・当レース委員会の指定した安全基準を満たしている事
・設計上の性格および装備等がヨットフェスティバルの主旨に相応していないとレース委員会が判断した艇については、参加申込を受け付けない場合がある
問い合せ：
・フェスティバルに関する事／
　西内海支部事務局：082-234-3442（FAX/留守電）
・係留に関する事／
　広島観音マリーナ：082-234-7710／
　広島プリンスホテルマリーナ：082-256-1111／
　海楽園ヨットハーバー／0829-56-0316／
　沖野島マリーナ：0823-57-2450

編・集・後・記

■前号掲載の「97年度本部予算」にあるとおり、今年の会報予算は300万円いただいている。これだけあれば雑誌形態にできるのではと思うが、予算のなかには毎回の発送経費も含まれている。ちなみに前号の発送経費は約74万円。タブロイド版にしてコストを抑えているものの、年4回発行すると予算は発送経費で飛んでしまう。制作の一部ならびに印刷を負担していただいている舵社をはじめ、折り込みを入れている関係から発送費の一部を負担していただいている関東支部、現在おつきあいいただいている広告主の皆さまのご協力に感謝します。（市）

■いろいろな方からタブロイド版第1号の感想をいただいた。某商業誌でも耳の痛いところをつかれてしまった。以前の"Offshore"の残像が強いのでしかたがないとは思うが、担当者としても正直なところ複雑な思いだ。今、NORCは新執行部の手によって抜本的な改革が断行されている。NORCの明治維新という声もある。会長の言葉にもあるように、NORCの今後は会員各位の強力な自主的協力にかかっている。すべては健全な財政基盤の確立があってこそなのだ。執行部への期待は大きい。（浅）

インターネット ホームページ・アドレス

現在、NORCがオープンしているホームページ一覧です。

・NORC本部：http://www.norc.com/
・関東支部：http://www.norc.com/kantou/
・近畿北陸支部：http://www.osaka.xaxon-net.or.jp/~evans/norc
・内海支部：http://norc.vio.ne.jp/
・南九州支部
　宮崎フリート：http://www.justnet.or.jp/ebf/uhdsppag/fullsail/YO.HTM
　鹿児島フリート：http://www.tipscorp.com/luna/index.html

N O R C 関 東 支 部 だ よ り

'97年臨時代議員会報告

1. 平成９年6月21日（土曜）13:15-16:35
2. おかもとやビル４Ｆ会議室
3. （出席代議員氏名）31名、順不同敬称略
福田義一・宮澤秀治・米原守・前田泰明・鈴木利夫・鳥山睦郎・安木邦貴・市原恭夫・中里英一・方栄世・初鹿野幸生・高村宏・清水泰文・楳田敏雄・市村俊明・北村勝彦・萬里小路昌秀・大口眞司・佐藤勝・伊藤彰男・古屋静男・鈴木駿一郎・榛葉克也・大野健作・沼田尚文・浪川宏・大坪明・畑田晴彦・斎藤晴彦・原田八郎・加藤直治
（欠席代議員氏名）順不同敬称略
欠席届：田辺秀明・別部尚司・林岳彦・平田克己・安高知二・清田博・脇坂菊雄・高野克巳・横沢真則・田中一美・松永武士・市川徹・佐藤三次・矢野守夫・岩澤文男
届けなし：津野守邦・日向野行平・福林紀之・中谷林平・小河原隆・植松真・馬目徳男・大石好幸・小板橋博行・朝河清・蒲谷和行・藤山勝済・菅野道・山崎正二郎・薗信雄・西脇豊・小澤美弘・柴田俊樹・石崎圭介・市川茂木・大川和好・古川利勝・高橋哲郎・関恭一郎・岡田敏久・池田栄八・児玉源寿
4. 議題：第１号から第８号議案まで下記にすべてて記載のとおり。
5. 出席者の確認：代議員定数77名。開催時出席　者で規約により成立。
6. 報告：関東支部細分割の実施案ほか、本誌記事に包含のとおり。
7. 議事：本誌記事にすべて記載のとおり。
審議終了16:35　　以上

決定関連事項の詳細

1. 財務の緊迫により、極めて速やかな実施が必要とされ、分割の時期を97年12月31日とする。
2. 全フリートキャプテンおよび全代議員により構成された各フリート代表者会議で慎重審議の結果、関東支部を東京湾支部（仮称）、三崎支部（仮称）、三浦支部（仮称）、湘南支部（仮称）に４分割し、その各々が地方支部と同様な支部機能を持つことを決めた。
3. 新４支部は共同で「関東水域支部連絡会議」を構成する。
4. 東京湾支部（仮称）は東京湾内の全フリートと柏崎フリートで、三崎支部（仮称）は諸磯と油壷フリートで、三崎支部（仮称）はシーボニア・小網代・佐島フリートで、湘南支部（仮称）は葉山・逗子・江ノ島・熱海伊東・下田フリートで構成する。
5. 新支部の機能、人事、規則など支部として必要なものおよび「関東水域支部連絡会議」についても97年11月に開催する臨時代議員会までに成案をつくり、議決する。
6. 関東支部の解散、残存処理についても、97年11月に開催する臨時代議員会までに成案をつくり、臨時代議員会で議決する。
7. 関東支部基金の将来についても、97年11月に開催する臨時代議員会までに成案をつくり、臨時代議員会で議決する。
8. 新支部の骨格が決まるまでの間に、各新支部内では、フリートのくくりを見直すものとする。
9. フリートの見直し期間の最終日を９月末日とする。
10. フリートの成立は次項のフリート成立基準により、現行関東支部規約に基づき理事会の議決を経て支部長が行なう。
11. フリートは、そのフリートに所属する特別会員と正会員について、特別会員の数を３倍にした数に正会員の数を加えた数が３０以上となる場合で、かつ、艇数５艇以上の場合に成立するものとする。
12. 上記各事項に記載のないもので必要なものは、支部理事会で審議し、97年11月に開催する臨時代議員会までに実施可能案をつくり、臨時代議員会で議決する。
13. 97年11月に開催する臨時代議員会につづいて臨時総会を開催し、諸手続きを完了させる。
14. 97年11月に開催する臨時代議員会・総会は11月15日(土)を予定する。

●第１号議案　新理事の承認
新理事として、堀口・石渡両氏を承認。

●第２号議案　本部への貸付金の返済について
本部への貸付金の返済を平成９年６月30日をもって免除する決議案を原案どおり賛成多数で可決。なお、決議案は以下のとおり。
決議案
「本部からの要請に基づき、本部への3,140万円の貸付金の返済を平成９年６月30日をもって免除する。ただし、以下第１項、第２項について、本部は真摯に受けとめ、その対策を明確にするとともに、第３項の要求にこたえてもらいたい。
1. NORCは誰が、どう、何に責任を持ち、誰が、どう、何を決めたかがあいまいな運営をしてきた。これを機会にこれらのことを明確にして運営してもらいたい。
2. 法人は予算主義で運営すべきで、見込み収入で事業を展開すべきではない。再び巨額な赤字を計上しないで済むような運営に徹してもらいたい。
2. 関東支部（近い将来予想される関東支部を継承する新支部も含む）の諸会議のため、本部会議室の無料使用、本部コピー機の無償使用および本部と関東支部理事会があらかじめ文書で合意した本部からの関東支部への協力事項を誠実に実行すること。なお、第３項後段の本部との合意事項については、関東理事会にその処理を一任する。以上決議する。

●第３号議案　関東支部細分割の実施案
（前記、「決定関連事項」のとおり）。

●第４号議案　支部分割にともなう新支部の設備準備について
第３号議案の支部分割にともなう新支部の設備準備のために関東支部基金から上限135万円の支出を賛成多数で可決。

●第５号議案　新選挙制度準備委員会の発足
各フリートから１名の委員で構成する新選挙制度準備委員会を発足させることを賛成多数で可決（第５号議案一部修正）。

●第６号議案　'97年関東支部本予算
'97年関東支部本予算を原案どおり可決承認した。

●第７号議案　会費未納者について
'96年会費未納者は関東会員名簿に登載しないことを決めた（第７号議案一部修正）。

●第８号議案　海外超過年者について
海外超過年者は関東名簿から削除することを決めた。

会費カード払い以外の会費自己払い会員の皆様へ

来年から４支部に分かれます。ボランティアでは処理しきれない事務量があるからです。特に会費収納事務は人手がかかっています。そこで、来年分から「自分の銀行口座からの振替引き落とし制度」に全員が移行することに決まりました。４支部に分かれてもこの制度になります（代議員会・総会決議97/02/22）。

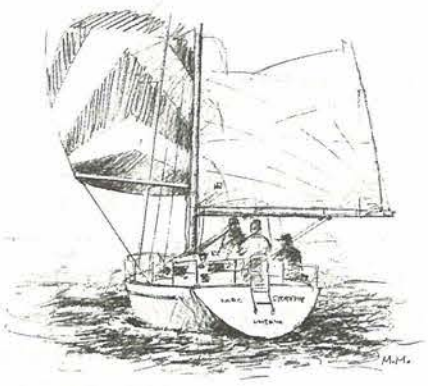
すでに該当する会員の皆様へは「銀行口座からの振替引き落とし制度」への用紙を発送しました。10月10日までに「銀行口座振替」による届出書の提出がないと、銀行との間で、来年の引き落とし手続きができず、自己払いの会員のままになり、来年の会費から3,000円の余分な外注事務手数料が会費に加算されますのでご承知おきください。また、この外注事務手数料の不払いな場合は会費納入完了とみなされませんのであわせてご承知おきください（代議員会・総会決議97/02/22）。

*お手元に口座振替の届出書が届きましたら、全ページの捺印と４枚目の捨て印をお忘れなく。お早めのお手続きをお願いいたします！

関東支部　来年度より４支部に分割決定！所属する新支部を決めてください

–議事録の参照を–

1. 関東支部は来年から４支部に分かれます。
2. 今のところ、フリートに所属している会員は自動的に新支部に移行・所属します。名簿に記載されているとおりです。
3. 現在、無所属の会員は、ご自分が所属したいフリート、またはフリートがなければ支部だけでも、その新支部に登録し、そこでご自分の事務を代行してもらって下さい。登録については、当面は関東支部事務所にFAX·はがきでお届け下さい。
4. 議事録にあるとおり、フリートのくくりを９月末日までに見直します。新フリートを作りたいとか、自分の所属フリートを変えたいとか、９月末日までに決めて下さい。特にお届け出がない場合は名簿記載のとおりとさせていただきます。



1997年ＫＳＣレース結果

関東支部レースであるＫＳＣシリーズは、それぞれが伝統あるレースであり、長い間数々のドラマを生んできたレースである。しかし、最近は参加艇が減少し、島回りレースの醍醐味を味わおうというクルーが少ないのが残念ではある。

今年のレースは毎回素晴らしい風に恵まれ、参加各艇は大いに楽しんでいるようだ。過去３回のレース結果とともに、KAZI誌に掲載されたレースレポートをまだ読んでいない方のために掲載する。

■1997　初島卯月レース（97KSC#1）
スタート：1997-04-05　10:00:00
ＩＭＳ　Ａクラス
第１位<DREAMPIC>
第２位<CORVATSCH III>
第３位<ORIHIME>
第４位<PROPAGANDA>
ＩＭＳ　Ｂクラス
第１位<AKIZUKI>
第２位<SHARK J>
第３位<ALPHA>
第４位<HIKARI>
第５位<CRISTALLA II>
第６位<SYLPHIDES>
RET：<GREAT PEOPLE>
ＣＲクラス
第１位<1311>
第２位<RAIA>
第３位<DAIICHI HANAMARU>
第４位<OIDON>
第５位<E2>
DNC：<ZETA XII>

最新刊
実戦ヨットレース・ルール解説 1997～2000
ブライアン・ウイリス 著／石井正行 訳
B5判／96頁／定価 本体1,900円（税別）
大幅な改訂が行われた新ルール解説の決定版。ヨットレースにおけるさまざまなシチュエーションを想定し、この場面では“君はどうすればいいか”という点に的を絞って、豊富なイラストと簡潔な文章で解説。

KAZI BOOKS　舵社 流通課
直通 TEL.03-3434-4531 FAX.03-3434-2640

雨、風、波、寒さ、と4拍子そろった第47回大島レース

過去に数々のドラマを生んできた伝統の大島レースは今年も葉山フリートの主管により、例年より少ない17艇のエントリーで当日を迎えた。朝、東海地方ではすでに大雨・洪水警報が発令され、この大雨を伴った前線が、相模湾に到達するのは午後とのことだった。つまり、レースの真最中ということになる。4艇が参加を取りやめ、IMS－A：4艇、IMS－B：6艇、CRクラス：3艇が、12～15KTの北東風を受けてスピンスタートした。

初島までは各艇順調に顔面が痛いほどの雨に耐えながら帆走し、得意のスピンランでフリートをリードした<ラッキーレディ>を先頭に、ほとんど一団となって初島を回航。同艇の回航から20分以内に9艇が初島を回った。

回航後は、風が東に振れはじめ、例年のように川奈へつっこむ艇はなく、ほとんどの艇が直接千波崎をめざした。北上する強い潮に押されながら、アパレントウインド・アングル75～80までスピンで切り上がるが、多くの艇が強くなったきた風でブローチングしたり、切り上がることができず、ジブで上りはじめる。この時、高さをかせいだ<ラッキーレディ>、<織姫>がダントツの走りをみせ、新艇の<ファースト>も健闘するものの、スピンで上り切れず、だいぶ下に流された。ひさびさにレースに復帰したCRクラスの<侍六世>は第2位で初島を回航。大いに健闘した。

大島まで、あと半分あまりの距離を残し、突然風が落ち、振れまわりはじめた。各艇がダンゴ状態になりはじめた時、大島よりから東のブローが下りてきて、高さのあった<ラッキーレディ>、<織姫>が最初に抜けだした。

他艇にブローが入るまでには30分を要し、各艇のメンバーは、目前に見えているブローがなかなか下りてこないのでジリジリと待つ羽目に・・・。島回りレースではよくあることで、その後大島手前で再度風が落ち、突然東から25KTのブローを受け、セールチェンジをする間もなくブローチングしたり、雨と悪い波の中、各艇のクルーが悪戦苦闘した。

竜王の付近では、風が大きく変化。雨と波に叩かれた各艇は、それでも先頭の2艇から30分遅れで竜王をかわし、最終的に北風をつかんで一路葉山に向かったが、すでにオイルスキンの中は雨でびしょびしょの状態。その寒さによって、島回りレースの厳しさをひさびさに痛感させられた。

レースは、<織姫>が25日午前01時12分にファーストフィニッシュ。2位の<ラッキーレディ>が01時51分と、この戦いは<織姫>のダントツ優勝に終わった。

第2グループは、03：45から5分以内に<UFO>、<コルバッチ>、<プロパガンダ>、<ファースト>が続々とフィニッシュし、新艇の<ファースト>がIMS-Bの優勝を飾った。

3艇が参加したCRクラスは、<侍六世>が計器のトラブルで大島回航後リタイア。最後にフィニッシュの<CRISTALLA>は、11時間30分遅れの午後12時54分だった。

微風から強風、クローズからランニングまで、数多くのジブチェンジ・スピンチェンジを行ない、寒さに耐えた非常に厳しいレースだったが、葉山にフィニッシュした各艇のクルーは、すがすがしい気分であったと思う。より多くの人たちに島回りレースの楽しさを満喫してほしい。

レポート：<プロパガンダ>　石渡一夫

■1997 第47回 大島レース（97KSC#2）

スタート：1997-05-24　11:00:00

IMS　Aクラス

第1位<ORIHIME>
第2位<LUCKY LADY V>
第3位<CORVATSCH III>
第4位<PROPAGANDA>

IMS　Bクラス

第1位<FIRST>
第2位<ALPHA>
第3位<UFO>
第4位<GREAT PEOPLE>
第5位<ADONIS>
第6位<CRISTALLA II>
DNC：<NAPOLEON>

CRクラス

第1位<INDEPENDENCE V>
第2位<DAIICHI HANAMARU>
DNC：<TACHYON>、<AOBA>、<ZETA XII>
RET：<SAMUAI 6>

KSC#3　初島レース　7月5日（土）

レース当日は、梅雨明けを思わせるほどの優勢な太平洋高気圧から、日本海まで北上した梅雨前線に向けて吹き込む南西の強風が吹き荒れた。波が2～3mという厳しい状況のなかで3艇がレースを取りやめ、18艇が初島へ向けて舵を引いたが、スタート前に<クリスターラ>がブームを破損して早々とリタイヤが出た。

20ノット前後の南西の風を受けて全艇順調なスタートを切った後、各艇ポートタックに次々と返して上りはじめた。艇団はラムラインより若干北側をクローズ一杯で走り、徐々に岸寄り、中央、沖出しに分かれていったが、その後風がさらに南に振れ、クローズ一本コースとなった。

風速もさらに上がってきて、30ノット前後となり、3～4mの波に叩かれながらただひたすら初島を目指す。<ラッキーレディV>が、中央寄りでトップ、次いで沖出しで<プロパガンダ>、<コルバッチIII>と続く。そのなか<アズサ>が健闘し、<コルバッチ>と並んで走る。この頃よりリタイヤする艇もぽちぽち出始めたが、幸いにも天気は真夏並みの気候、スプレーを頭からかぶっても結構心地よい。

さて、初島に近づくにつれて伊豆半島のブランケットに入るので、たいていは風が落ちてくる。この日も例の如く波・風とも弱くなり、さらに島の周りは風が振れ回っていて、各艇バラバラの方に向かって上っていった。結局、沖出しが有利となり、<ラッキーレディV>、<プロパガンダ>、<コルバッチIII>等の大型艇から順に初島を回航した。

帰りのレグは、デッドフリーに近いクォーターリーで各艇当然スピンを上げたが、初島から遠ざかるにつれ、行きの時と同様風が吹き上がり、最大で40ノット近くまでを記録した。各艇は次々ブローチングしてスピンダウン。この時、<ファースト>も最大で16ノットのスピードを記録し、その直後、激しいブローチングを受けてしまい、全員ライフラインにぶら下がることとなった。

結局ほとんどの艇がジブを上げて走ったのだが、そのなかで<第一花丸>は悠然とスピンランをしていた。やはりこのような海況になると、シーワージネスの大切さを痛感する。

この強風により、初島より10マイル程度のところで<あおばが>デスマスト。近くを帆走していた<ライア>と<ファースト>がVHF無線により状況を確認したが、乗員・艇とも異常なく、マストの回収作業をしている様子なので、三崎ヨット局にその旨連絡してレースを続行した。

さてレースは、非常に速いペースで進み、<ラッキーレディV>がなんとスタートから6時間を切ってトップフィニッシュした後、各艇次々とゴール。最終艇でも8時間20分程度の所要時間であった。結果は、IMS-Aクラス<コルバッチ>、IMS-Bクラス<アズサ>、CRクラス<ライア>の優勝となった。

最後に、KSC初島レースは、オフショアとしては短いコースではあるが、十分その雰囲気も味わえ、たいていは日帰りでのレースとなる。相模湾を中心に活動しているヨット乗りにとって、気軽に参加できるレースの1つであると思う。

レポート：<ファースト>　中丸睦美

■1997　初島レース（97KSC#3）

スタート：1997-07-05　10:10:00

IMS　Aクラス

第1位<CORVATSCH III>
第2位<PROPAGANDA>
第3位<LUCKY LADY V>
DNC：<ORIHIME>

IMS　Bクラス

第1位<AZUSA>
第2位<NAPOLEON>
第3位<AKIZUKI>
第4位<FIRST>
第5位<ALPHA>
DNC：<DANCE OF MAGIC>、<HAGUMI>
DNF：<HIKARI>、<CRISTALLA II><DANCE OF MAGIC>、<HAGUMI>

CRクラス

第1位<RAIA>
第2位<DAIICHI HANAMARU>
第3位<YUKIKAZE VI>
第4位<OIDON>
第5位<E2>
DNF：
<INDEPENDENCE V>、<AOBA>、<ZETA XII>

関東外洋ヨット選手権シリーズ1997 兼、第20回関東フリート対抗シリーズ

伝統の関東選手権の日程が決定。8月23日現在のレースインフォメーションが発表された(以下)。　今年のレースも、油壺ベイヨットクラブを中心に、油壺ヨットクラブ、諸磯オーナーズクラブが協同にレース準備にあたっているが、関東支部分割が決定した今、新制NORCを先取りする形で、フリートの協力を得ながら楽しいシリーズレースをめざしている。

主催：関東外洋ヨット選手権実行委員会
共催：油壺ベイヨットクラブ（ABYC）
　　油壺ヨットクラブ（AYC）
　　諸磯オーナーズヨットクラブ（MOYC）
後援：社団法人日本外洋帆走協会関東支部

レース日程

10月 4日（土）第1レース：ショートオフショア
10月 5日（日）第2レース：インショア
　　第3レース：インショア
10月10日（金）第4レース：インショア
　　第5レース：インショア
10月11日（土）第6レース：ロングオフショア

参加資格

●IMSクラス

1997の有効なレーティング証書を所有し、ORCの特別規定1997カテゴリー4以上、NORC設備規定B以上の検査に合格した、LOA7.5m以上の艇。

●CRクラス

1995バージョン6.00以降の有効なレーティング証書を所有し、ORC特別規定1997カテゴリー4以上、NORC設備規定B以上の検査に合格した、LOA7.5m以上の艇。

オフショアレース特別規定（クラス共通）
ライフラフトの定員数は、乗員の過半数以上。乗員全員分のセーフティーハーネスを搭載すること。通信手段は、VHF（国際、マリン）・携帯電話のいずれかを搭載すること。

参加料

IMSクラス、GPH599.9sec以下：¥100,000
他のIMSクラスおよびCRクラス：¥70,000

乗員登録料

NORC会員は無料、非会員は¥4,000
＊詳細は、FAXサービス：03-3452-8377　BOX No.0210にて取り出して下さい。

関東選手権過去優勝艇成績一覧

1996年

IMS Aクラス：<エスメラルダ>
IMS Bクラス：<サエラ>
IMS Cクラス：<ボナンザ5>
CR クラス　　：<ラハイナ5>
フリート優勝：シーボニア青

1995年

IMS Aクラス：<シーホークハイファイブ>
IMS Bクラス：<あずさ>
IMS Cクラス：<サモア　6>
IORクラス：<アーカンベイ>
CRクラス：<ラハイナ　5>
フリート優勝　　諸磯

1994年

IMS Aクラス：<プレスト>
IMS Bクラス：<エスメラルダ>
IMS Cクラス：<ノゾミ>
IOR Aクラス：<カラス>
IOR Bクラス：<サイケン　2>
CRクラス：<ラハイナ　5>
フリート優勝　TOKYO BAY SPIRIT